

道徳の授業における教材の生かし方

教材の特性を生かした授業展開にしたいけど・・・

こんな工夫をしてみてもはどうでしょう。

教材には葛藤場面がないものもあり、どのように授業を展開すればよいか悩むのよね？

「葛藤場面ありき」で教材を分析してしまうと、ワンパターンの授業になったり、葛藤場面がない教材においてどのように分析してよいか悩んで、無理やり葛藤場面を作ってしまったたりしてしまいがちです。

教材の特性を最大限生かすためには、どんな視点で分析すればいいのかしら？

そこで、教材のもつ特性を最大限生かすためには、教材の多様な活用方法を知り、分析する視点をもつことが大切です。また、教材のもつ特性を最大限生かすために指導の工夫をしてみましょ。

教材を生かした授業展開をしたいけど、どうすればいいのかしら？

こんな取組をしている先生がいらっしゃいますよ。

教材の多様な活用方法

教材の特性を生かした学習を展開するためには、教材の多様な活用方法を理解することが大切です。全ての教材に葛藤場面があるとは限りません。葛藤場面がないような教材は、その教材のもつ特性を生かした活用をする必要があります。

教材の多様な活用方法を知ることによって、同じ教材でも子どもの実態に応じて多種多様な授業を展開することもできます。

登場人物の心情に共感させる活用

教材中の登場人物になりきらせ、ねらいとする道徳的価値に関わる価値観について考えさせる。

発問例:○○は、△△のときどんな気持ちだったろう。

教材のもつ感動を大事にした活用

教材を読んで感動したことについて子どもに考えさせ、他者との話し合いを通して、一人一人の感動をより深める。

発問例:友達の感動した理由と自分の理由を比べてみよう。

教材の活用方法

批判的な見方をする活用方法

登場人物の行為や考え方等について、批判させ、話し合いを通してねらいとする道徳的価値に関わる考えを深める。

発問例:主人公の行為についてあなたはどのように思いますか。

知見や気づきを考えさせる活用

登場人物等の道徳的行為を一つの模範例として学ばせ、登場人物のどのようなことを学んだかを考えさせる。

発問例:主人公はなぜ困っているのだろうか。

教材に合わせた道徳的価値のよさや大切さの追究の在り方

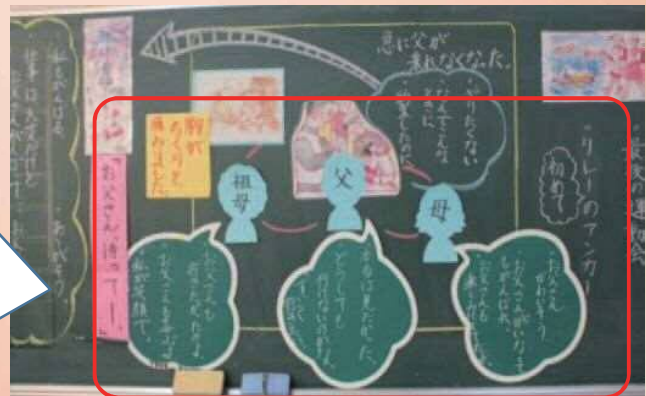
道徳の授業においては、子どもたちが「友達を思いやることは大切だな。」「自分の目標を達成するために努力したいな。」など、よりよく生きることのよさを実感させることが大切です。そのためには、教材中の登場人物の心の弱さに共感したり、道徳的価値のよさや大切さを追究させたりする必要があります。

そこで、教材に合わせた道徳的価値について追究させる際に板書の工夫が大切です。子どもの意識の流れに沿いながら、順序と関係が明確になるように板書を計画することが大切です。

内容項目:C-15 家族愛 資料名:はじめてのアンカー【学研教育みらい】

資料中の主人公の心情とその他の登場人物の心情を多角的に捉えることができるように、板書を工夫しています。

主人公の心情だけでなく、様々な立場から、物事を捉えなおし、家族の大切さや、家族のために自分にできることについて考えさせる効果があります。



地域教材の活用

各地域の素材を生かし、それを教材として活用することで、子どもが教材を身近なものと感じ、教材に親しみながらねらいとする道徳的価値について考えを深めることができます。

それぞれの地域には、祭りや工芸品などが必ずあります。それらを積極的に活用することで、子どもたちが実感を伴った学習が期待できます。まずは、地域の伝統、文化を教材として活用するために、教師が地域のことを知ることが大切です。

地域教材を活用する際には、実際に地域の方に授業に参加してもらったりビデオレターを作成したり、また、郷土の伝統工芸品などを実際に見せたり触らせたりすることも効果的です。



地域教材に詳しい方をゲストに招く。



地域人材のビデオレターを活用し学校に保存する。



教材中に出てくる伝統工芸品を実際に活用する。

指導方法の工夫① ～板書の構造化～

板書を構造化したいと思うけれど、うまくいかない・・・

こんな工夫をしてみてもはどうでしょう。

構造化された板書にするために、大切にしなければならないポイントは何ですか？

子どもが、授業を通して自分がどのような流れで、どんなことを学習したのかをはっきり分かるように整理して書くことが大切です。また、考えを深めていく過程を明確に意識しながら授業に取り組めるとともに、自分の意見だけでなく友達の意見との関わりの中で考えを深めていくことができるものにしたいですね。

構造的に書いているつもりですが、子どもが自分の考えをまとめる際に生かせない（止まってしまふ）のはどうして？

板書の中で気を付けたいのは、子どもの発表をそのまま書くのではなく、学ばせたい価値や弱さ、心構えなどに一般化して書いてあげることです。これからの生活で生かすことを考える場面で、学び取った価値や弱さ、心構えなどがしっかり黒板に書かれていないと、何をどのように生かすことができるのかを考えることがとても難しくなります。

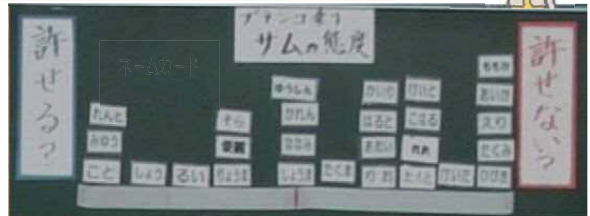
どのような板書の工夫が考えられるのでしょうか？

挿絵、色チョーク、表情絵、ネームカード、小黒板、ICTを取り入れるなど様々な工夫がありますが、どのような意図でそれをどのように活用するかが大切なことです。動きや音を効果的に取り入れていく工夫もできると思います。

こんな取組をしている先生がいらっしゃいますよ。



ICTを板書の一部に取り込み、挿絵に書き込んだり、一度消したものを再度映し出すことができたりする特性を生かした例



ネームカードで一人一人の立場を明確にし、理由や根拠となる生活経験を交流させていった例

- ・新しい考えやアイデアが生まれる。
- ・相手のいいところが見つかる。
- ・相手も自分のことを理解してくれる。
- ・周りの人の心も動かすことができる。
- ・仲間が増えていく。

子どもたちの考えた道徳的価値の意義を分類し、多様なよさに気付かせた例



大きなハサミを準備し、「この心の弱さの鎖を切るからね。目を閉じて心の中で鎖の切れる音を聞いてみてね。」と言ってハサミで切る音を聞かせ、その爽快感を疑似体験させた例

指導方法の工夫② ～書く活動～

「書く活動が大切だ」と言われるけれど・・・

こんな工夫をしてみ
てはどうでしょう。

どうして、書く活動を行うので
すか？

書く活動を取り入れることで、子どもが自分の考
えを整理し、深めていくことができます。

こんな取組をしている先生がいらっしゃいますよ。

道徳の時間では、展開前段（中心発問）と展開後段で書く活動を取り
入れることが多いです。

低学年であれば、中心発問に対応する挿絵と吹き出しがあると、子ど
もは登場人物の心情をより想像しやすくなります。また、罫線があるこ
とで、文字を書くことが苦手な子どもも、安心して書くことができるよ
うになります。

おかあさんに
はなしたら、しか
られるかもしれない。
だまっておもうかな。

中心発問において、なかなか自分
の考えを書くことができない子ど
もには、どのような手立てを取れば
よいのですか？

登場人物の心情を想像しやすくするために、表情
絵や心の天気カードを使ってはどうでしょう。
また、登場人物の心情を色で表す方法もあります。

こんな取組をしている先生がいらっしゃいますよ。

【表情絵や心の天気カード、色を使う方法】

中心発問において、書く活動の前に、挿絵等から登場人物の表情や心の天気を想像させます。

具体的には、「このときの〇〇さんの顔は、どれかな。」や「このときの〇〇
さんの気持ちは、天気でいうとどれかな。」などです。その後、「どうしてその
ような気持ちになったのかな。」と補助発問をし、ノートに書かせます。

登場人物の心情をいったん表情や天気に表示することで、登場人物の心情を想像
することが苦手な子どもの心の中を、より引き出すことや表現させることがや
りやすくなります。

また、道徳の時間において心情を色で表す場合は、その色を塗った背景にある理由が大切にな
ってきます。そのため、色を塗った理由を考えさせながら活動させることが重要です。

具体的には、中心発問において、「〇〇さんの心の中は、どんな色かな。」と
発問し、登場人物の心情を色で表現させます。その際、ハートの枠を用いるこ
とで、より心情を表現することができるようになります。また、色の種類や塗
り方は指定せずに行うと、その子どもなりの自由な発想を生かすことができ
ます。その後、言葉を書くことができる子どもは、その周りに言葉を付け加えて
いくようにします。

一番重要なことは、色を塗った後の教師や友達との対話です。何色を塗った
のかではなく、どうしてそのような色を塗ったのかという背景にある心情を聞
くことで、心情を言葉に表すことができるようになります。



指導方法の工夫③ ～対話活動～

対話活動を充実させたいとは思っているのだけど…

こんな工夫をしてみ
てはどうでしょう。

「対話活動」のねらいとすることは、どんなことですか？

「多様な意見や価値観にふれる」、「表現し、伝え合う」レベルにとどまらず、ねらいとする道徳的価値の本質に迫るための思考の道筋（論理、ロジック）を習得することです。

意見を単に出し合っただけの対話活動になってしまいがちに…どうしたらいいのかな？

対話活動のねらいを十分に理解した上で、適切に対話場面やテーマを選定し、「目指すべき対話の姿」を明確にもつ必要があります。

また、子ども一人一人に、対話するために必要となる能力（スキル）もしっかり身に付けさせてあげる必要があります。

対話場面やテーマを選定する際に大切にしなければならない視点はどんなことですか？

①「長期」と「短期」という時間軸の視点
②「誰にとって（私と公）」という視点
また子どもの発言をもとに重点化するとよいです。

「目指すべき対話の姿」のために、対話活動中、どんな発問をしていくとよいですか？

発達の段階に応じて、「共感的な受け止め」から「内容への問いかけ」を多くしていきます。例を挙げます。

- ① 具体例を挙げて考えさせる。
- ② 教師が適切な表現で言い換える。
- ③ 反例をあげ、子どもの意見の妥当性を問う。
- ④ 意見の理由や根拠を明確にする。
- ⑤ 文言の具体的な内容を問う。

こんな取組をしている先生がいらっしゃいますよ。

指導内容【B-6 親切、思いやり】資料名「はしのうえのおおかみ」（学研教育みらい）

役割演技を通した対話：くまの後ろ姿を見つめる おおかみ【中心発問】←**テーマ発問**

T：おおかみさんは、くまさんの後ろ姿を見つめて、どんなことを考えていたのでしょうか。

C：こうすればよかった C：わるいことをした C：くまさん、やさしいな

T：おおかみさんも、道をゆずっているよ？ おおかみさんも優しいよ。

C：「おおかみさんの優しさは、うそ。」

T：うその優しさなの？本当の優しさって、どんな優しさ？ ←**【重点化発問】** ※この後、対話

指導内容【C-12 規則の尊重】資料名「きまりは何のために」（学研教育みらい）

対話活動：忘れていた大切なこととは【中心発問】←**テーマ発問**

T：ぼくたちが忘れていた大切なこととは、どんなことか考えましょう。

C：【C：自分本位】・怒られる ・自分に利益 【B：他人の考えに重き】・迷惑がかかる

【A：「義務」がある見方】 ・義務もある

T：C→B ・明と鉄男は、どんなことに気付いたのだったかな？ ・自分のことだけで考えていないかな？

C→A ・自分の権利ばかり主張しているのよかな？ ・「義務」という視点から考えたら、どうかな？

T：「権利」と「義務」、どちらが大切なのでしょう？ ←**【重点化発問】** ※さらなる対話

指導方法の工夫④ ～役割演技～

役割演技を効果的に取り入れたいと思うのだけど…

こんな工夫をしてみてもはどうでしょう。

役割演技で思うように考えを引き出すにはどうしたらいいのかしら？

役割演技って、何人くらいにさせればいいのかしら？

時間がかかる割になかなか多様な考えは出てこない…どうしたらいいのかしら？

恥ずかしがってしっかりした演技にならないので、追究させるのが難しい。その場合はどうすればいいのかしら？

つつい演技をした子どもだけに思いを聞きがちですが、演技を見ている子どもたちにも、演技をしてもらった子の表情やセリフの言い方、仕草などからどんなことを感じたかを発表させることも有効です。

そうすると、たくさんの子どもの演技をさせなくても、一人の子どもの演技から多様な考え方や感じ方を引き出すことができます。

そのためには、見ている子どもたちに、視点（表情・セリフ（言い方）・仕草）をもって見る習慣を普段からつけておくことが大切です。

役割演技の肝は即興性です。即興的であるからこそ、子どもが内面にもっている思いや考えが表出されることとなります。ある程度、場面や状況をしっかり設定した上で、何をどのように演技させるかも吟味し、子どもの内面が思わず発露してしまう役割演技になるようにしていくことが大切です。

こんな取組をしている先生がいらっしゃいますよ。

フロアの子どもたちと対話しながら、多様な見方等を引き出すために…



フロアの子どもたちに演技を見る視点をもたせる。

演技前に…

演技をしてくれる友だちの表情や仕草からどんな気持ちが読み取れるかも考えてみてね。

演技後に…

おばあさんはどんな気持ちで〇〇くんを見ていたのかな？（見ていた子どもたちに）

〇〇くんはおばあさんから目をそらしたよね。どんな気持ちからそうしたのかな？（見ていた子どもたちに）

（発表に対して）〇〇くん、□□さんは目をそらした理由を～と言っているけど、そんな気持ちがあったのかな？（演技者に）

〇〇くんはどんな気持ちから目をそらしたのかな？（演技者に）

□□さん、〇〇くんの～という気持ちについてはどう思うかな？（発表者や他の見ていた子どもたちに）

△△くんは、さっきから〇〇くんの発表にうなずいているね。どうして〇〇くんの気持ちがよくわかるの？（他の子どもに）



演技をした子どもだけではなく、演技を見て感じたことを、フロアの子どもたちに答えさせる。

役割演技では、演技者から詳しく聞き出そうとするあまり、教師と演技者の1対1のやりとりになりがちです。役割演技を基にフロアの子どもたちも含めて対話を行っていくことで、教室全体で思考していくことにつながっていきます。

家庭・地域との連携の工夫

「道德通信」って聞いたことがあるのですが・・・



こんな工夫をしてみてもはどうでしょうか。



道德通信を出すとどんないいことがあるのですか？



道德の時間の様子や育った心情が各家庭に伝わり、他の教科とともに心の成長も感じてもらうことができます。

また、教科化へ向けての真摯な取り組みとしても伝わるのではないのでしょうか。



どのような内容を掲載すればいいのですか？



次のページに項立ての例を示していますので、参考にしてみてください。

- ①「どんな授業をしたのか」
- ②「授業の様子」
- ③「家庭へのお願い」
- ④「児童の振り返り」
- ⑤「ゲストティーチャーの話」 など



道德の時間ごとに発行するのですか？



毎回出すというのは現実的には難しいと思います。最初は学期1，2回程度からはじめてみてはどうでしょうか。



年間何回くらい発行すればいいのかな？

初月号を発行の際に、あらかじめ何回程度発行するのかその旨記載しておくといいと思います。学校や学年の重点項目を実施した際に発行するというのもいいかもしれませんね。



一方通行の情報発信でしかないように感じるのですが、それでもいいのでしょうか？



家庭・地域との連携を充実させるためには、学校や学級での取組を知ってもらうことが第一歩です。しかし、情報発信だけではなかなか充実していくことは難しいように感じます。

道德通信の内容を学級 PTA での話題にしたり、子どもの家庭での変容を伝えてもらったりするなど、参画意識を生み出すきっかけも大切です。



実際の保護者の反応や声といったものはあるのでしょうか？



実際に寄せられた保護者の反応や声をいくつかご紹介します。

- ・ 子どもがどんな学習をしたのか詳しく知ることができてよかった。
- ・ 子どもたちの振り返りがすてきでした。
- ・ 授業参観や地域で自分の子どもと同じクラスの子に会ったら声をかけたくくなりました。
- ・ 授業後、家庭でどんなことに取り組みばよいのか具体的に分かりました。
- ・ 自分たちが子どもに受けた道德の時間より内容が濃かったです。 など

こんな取組をしている先生がいらっしゃいますよ。



平成 年 月 日
 ○ ○ ○ 小学校
 道 徳 教 育 通 信

6年2組保護者様

心のまど

～いただきますの意味は～

こんな道徳の授業を行いました
 今回の春休みの前回のねらいは、「自分の生活を見つめ直し、すべてのものに感謝しながら、節制に心がけようとする態度を育てる」です。
 タイ国からの留学生である主人公は、日本人が食べ物を粗末にしている姿を見て悲しい気持ちになります。「昔の日本人は、どんなものでも大事にして、感謝の気持ちを忘れなかったはず。」と呼びかけ、もの大切さについて考えていくお話です。

授業での子どもたちのようす
 授業の導入では、戦時中の配給の写真や日本の食糧自給率の資料を見て、「昔の人は大変」「今は何でも買える」などを出し合う中で、表面的でなく、「『もの』の大切さを真剣に考えていたのだろうか」といふ問いを立ててスタートしました。
 資料を読み、お父さんが一生けんめい育てたえびがたくさん食べられていたのを見た主人公の気持ちに迫る場面では、友達との交流を通して、「育てている人の気持ちは考えていないのかな」や「もったいないことをするなあ」など、自分の言葉でたくさん発表することができていて感心しました。
 資料を通した後、「『もの』の大切さを真剣に考えていたのだろうか」と問い返して振り返らせたり、「作ったり、育てたりしている人の気持ちを考えていなかった」や「感謝の気持ちが足りなかった」や「悲しさをもち取って自分たちは生きている」など、自分の言葉で気持ちをこめて発表する姿は、さすが6年生だなあと思いました。参観にこられた先生方も興味深く聞いてくださっていました。
 最後に、スペシャルゲストとして、地球の大先輩である〇〇〇さんをお迎えし、幼少期のお話をさせていただきました。今回は特別に「すずめの卵」というおかしと一緒に食べ、50年以上前にタイムスリップしたような気持ちをクラス全員で味わうことができました。すずめの卵を一人一袋ずつプレゼントしてもらってみんなうれしそうでした。

ご家庭にお願いしたいこと
 ～小さな幸せをともに感じてください～
 この授業を通して、子どもたちは、ものや食べものなどが「当たり前」のようにあることが、いかに幸せであるかということにあらためて感じていました。また、動物先生のお話を聞いて、「もの」には『思い』がこめられていることに気づき、自分自身も『思い』をこめて、使ったり食べたりしていかなければならないという気持ちが高まっています。今後、今まで以上に『感謝』の気持ちをこめて「いただきます」や「ごちそうさま」という言葉を言うと思いますので、ご家庭におかれましては、食事などの場面をとらえ、ものありがたさを感じ取るような機会をつくっていただき、改めて幸せを親子でかみしめる時間を設けていただけると幸いです。

〇〇さんのお話
 50年前、わたしが生きたころ、たまにしか買わないお小遣いで買わずかなおかしを、今のようにたくさん食べるなんてともしゃないけど、もったいなくてできませんでした。大事に大事にゆっくりゆっくり味わって食べていました。また、どんな「もの」にも『思い』がこめられています。買ってくれた人の思いなどです。「もの」を食べたり使ったりするわたちも「思い」をこめていきたいですね。

〇〇さんの振り返り
 私達のために働いて食べ物を作ったり、育てたりしている人に感謝しながら使ったり食べたりする。動物先生がおっしゃるように、買ってくれた人に感謝しながら食べたり使ったりしたいと思えます。『いただきます』や『ごちそうさま』は作ってくれた人への感謝の気持ちです。『いただきます』や『ごちそうさま』は動物の命への感謝の気持ちです。〇〇より

写真

①「どんな授業をしたのか」
 内容項目やねらい、資料のあらすじなど。

②「授業の様子」
 児童の反応や様子

③「家庭へのお願い」
 この学習を通して高まった道徳的实践意欲を、学校だけでなく家庭や地域での態度へとつなげられるように、具体的な手立てを協力依頼という形で掲載する。

⑤「ゲストティーチャーの話」
 話の要点などを載せるとよい。
 ※写真を載せる場合は了解を取りましょう。

④「児童の振り返り」
 数人を抜粋する。
 ※掲載される児童が偏らないように留意しましょう。

どの欄に最も力を注いで発行すればよいのでしょうか。

ズバリ、「家庭へのお願い」です。道徳の時間に高まった道徳的实践意欲を発揮する場合は、学校だけでなく家庭・地域にも広げてほしいですね。保護者にどんな協力をしてほしいのか具体的に示すことによって、多くの大人の励ましや見届けの体勢が強化され、児童の道徳的实践力は確実に培われていくのではないかと思います。
 「私たちの道徳」を家族で記入していただくような協力依頼もいいですよ。